東九州支部報

第 102 号

公益社団法人日本山岳会東九州支部
2023 年 7 月 25 日(火)発行

月例山行・米神山山頂にて（2023.5.27）

も　く　じ

１．支部活動		岳切渓谷	１０
令和５年度　本部通常総会	２	比叡山行かない	１１
米神山（５月月例山・山行・研修）	２	クマガイソウ自生地と諸塚山など	１３
御座ケ岳（６月月例山・山行・研修）	４	牛ノ峠子午線標探索と宮崎百山	１５
２．個人投稿		津江の県境稜線探索山行	１６
より安全な登山のために(No,49)	５	登山会報リバイバル　第４回	１７
より安全な登山のために(No,50)	６	３．支部からの報告	１８
私の無名山ガイドブック(No,89)	６	４，お知らせコーナー	１８
剣岳　八峰Ⅵ峰･C フェース	７	後記	２０
中央アルプス宝剣岳　サギダル尾根 79)	９		

令和５年度　本部通常総会

支部長　安東桂三（9193）

令和５年度通常総会が６月 24 日、開催された。ZOOM でも参加可能だったので、参加された東九州の会員も多かったと思う。本会は現在 4221 名の会員がいて、出席者 2583 名（委任状含む）により総会は成立した。会員には、２冊の総会資料が事前に配布されていたので、詳細の確認は、それを見ていただきたい。いくつかの課題についてのみ、支部報に記載したいと思う。

財務状況は、過去 10 年以上にわたる会費収入の減少によって、通常業務の維持が困難になりつつある。令和３年度の経常収支は、527 万円の赤字、そして令和４年度は 524 万円の赤字となっている。また、会員の高齢化がすすんでいる。準会員制度を導入しているが、顕著な成果は上がっていない。また、会員は、昨年に比べて、90 名の減少となった。

以上のことから、古野淳会長（６月に退任）は、早急の対応をするべきであり、JAC の存在意義を高める事業について述べた。古野淳会長は、２期４年間の会長を務め、コロナ禍の JAC 切り盛りをして、次期の役員につなげた。

さて、次期の会長は、橋本しをり氏となった。JAC 始まって以来の女性会長となった。橋本会長のもと、令和５年度は、会員数の維持・支部活動の活性化・若手会員の活動の活発化・120 周年記念事業、などを基本方針とするとなった。予算もれに合わせて、有効な事業に振り分けた予算となった。

橋本しをり会長は、東京女子医大山岳部出身で、国際山岳医、日本山岳ガイド協会のガイド、女性だけの登山隊（ガッシャブルムⅡ峰）の隊長もつとめ、チョー・オユーや、チョモランマにも出かけている。現在では、がん体験者と共に、富士山登山を行っている。

古野淳前会長には、４年間ありがとうございました。橋本しをり会長には、よろしくお願いしますと伝えます。特に、基本方針の２番目、支部の活性化は、支部の活性化が JAC 全体の活発化につながるとあり、東九州支部にも責任があることを再認識した。また後日、平川陽一郎氏が、常務理事に就任したとの報告があった。平川陽一郎常務理事は、大分に縁のある方で、当支部の首藤宏史氏は、陽一郎さんのお父様とは、交流があったと思います。何かと相談できる方が、常務理事になられて、課題や悩みなど相談できると思いました。

また、通常総会の様子は、公開されているので一度御覧ください。（URL 下記）
https://jac1.or.jp/event-list/event-guide/2023062826395.html

米神山（475m）月例・研修山行

５月月例山行

報告　佐藤　彰（16709）

月日　：　５月２７日（土）
９：００　京石登山口駐車場集合
・今回は月例山行と研修山行を兼ねての山行
・登山開始前に安東３０分程の講義あり
講義内容：「リーダーシップ、メンバーシップについて」、「搬送技術について」
重要な事なので紙面を割いて以下のとおり報告

昨年大分県で山の事故で６１件の遭難事故があり、路迷いはその３分の１の２０件くらいあり、そのうち６名が死亡した。最近、事故があまりにも多く、全国でも年間で３００人余りの人が山で死亡しているという。

当支部も高齢化が進み、最近事故が多発していることを踏まえ、このまま当支部でも「人を育てていかなければ先がない」との悲痛な面持ちである。もし山で事故が起きたら、実際どういう行動を取れいばいいかという、山に行く心構えと搬送法の知識と技術についての熱い講義であった。

傾山で滑落があったその時、どこに助けを求めるか」、「その時リーダーはどのような動きをとればいいか」ということに対し、登山計画書の作成、登山届の必要性、スマホに頼らない、地図とコンパスで現在地を確認できる読図の大切さを説かれた。

続いて、当日の研修として「滑落事故が起こり、今持っている装備で今何ができるか？」という内容で、各班に分かれて実習を行った。

私の班ではサブリーダーの佐藤秀二さんの指導で、ウエアとストックで、誰でも簡　単に担架が

作れる方法を伝授して頂いた。これには皆さん驚いていた。次に安東支部長がザックで担架を作る方法、ロープを使っての負傷者を担ぐ方法、背負い搬送、それに負傷者を担いで坂を下りるとき、上るときの搬送者をビレイする方法等々スリング、ロープを使って披露してくれた。

私事だが、３０年前に傾山で事故が起きた。当時、７名のパーティーで２１：００頃豊栄鉱山跡登山口を出て、九折れ小屋を目指した。２４時近くに、小屋につき、ほっとしているところ、その小屋の前の平坦な場所で１人が、足を小木の上に乗せ、すべり、両足の骨折事故を起こした。（後で骨折したと病院で判明）。それで傾山登山を諦め、夜明けとともに朝４；００に下山することにした。ザックを空にし、７２キロの負傷者を背負って鉱山跡地を目指し、急傾斜の坂道を下りた。

当時、私も若かったので６０キロのザックを担うということはそんなに苦にはならなかったが、７０キロの人を一人で担いで降ろすとどうなるかを経験した。

腕の付け根の毛細血管が少し破れて、赤く血が滲み、手の感覚が全く無くなった。岩場や傾斜が急な斜面の下りでは足を滑らせたり、バランスを崩したりと大変であった。今思うと、よく転げ落ちて、２次災害を起こさなかったなあと思う。今回の研修内容のロープ技術、ビレイ技術を持ち合わせていたら、その際に、全員で楽に人を担ぎ下ろすことができたのにと悔やまれる。

山ではいつ事故が発生するかわからない。山の高低は関係なく、平たんな場所でも不注意で事故が起きる。遭難事故も厳冬期よりも春、秋のほうが多いという事実。

心の注意をしていても入山すればするほど、事故のリスクは高まるものである。事故が起きた場合の初期対応、リーダーとしての対処方法、もっている道具を最大限に生かす知識と技術は重要である。今回の支部長の研修は非常に重要な役立つ研修であり、参加者全員がしっかりと興味深く傾聴していた

１０：００　米神山出発

参加者３６名を７班のパーティーに組む。私は笠井美世リーダー，佐藤秀二サブリーダーの第２班。当日は天気も良く、はじめてのコースでもあり、大巨石群が見られるというのでワクワク感があった。

月の神谷の石

佐田京石登山口より入り、山頂を目指す。早速、登山口には佐田京石と呼ばれる不思議なストーンサークルがあり９本の巨石画円を描くように空に向かって立っている。それから少しトラバースして徐々に傾斜はきつくなる。

暫くロープ伝いに急登が続き、大巨石群に到着し小休止。また登っていくと、間もなく目の前に大分県の山々が広がり、山頂に到着

１１：１０　山頂到着

昼食（日差しが強かったので日陰で昼食を取る）安東支部長からこの山の地形を「何と言うか？」の問い。万年山に代表される浸食に強い岩石の層が取り残されて出来たテーブル状の地形のことを「メサ」といい、さらに浸食が進むとこの山のように塔状である「ビュート」と呼ばれるとの説明。た「何山が見えるか？」という質問に、皆で、玖珠、別府の山々の名前を言い合った。高崎山、由布岳、鶴見岳など万年山まで見渡せ、楽しい時間を過ごすことができ、最後に全員で写真を撮った。

１２：００　高岩を目指し下山。ロープ場が続き、前の人にぶつかり、怪我をしそうな急傾斜で、一気に下るという表現が相応しい下山であった。40 分ほどで車道に出くわし､佐田京石登山口まで県道をてくてくと歩く

１３：００　佐田京石駐車場に全員到着　正味約２時間の山歩きコースであった

米神山は４７５メートルと低山ではあるが、急であり、落ち葉で滑り安く、いったん雨が降れば危険な侮れない山である。今回は天気に恵まれ，絶景を楽しめた、楽しい山行であった。　河野達也リーダーの閉会のご挨拶

３６名をこの滑りやすい、危険な場所をリードして頂き、全員が無事下山できた事にほっとされている事と思う。 また、地図まで用意して頂き、大変お世話になりありがとうございました。感謝。

参加者：リーダー：河野

安東、今川、飯田(勝)、飯田（修）、濱崎、笠井、佐

藤（秀）、佐藤（彰）、平原、河村、矢野、中野（稔）、中野（梨）、榎園、興梠、坂田、下川、木下，宮原，飛高、山田、松浦、境、諸田、皿山、尾家、古谷、石神、井村、上橋，上野、宮本、図師、寺道、佐藤（裕）、佐藤（美）

御座ヶ岳（996.6m）
月例・研修山行
6月月例山行

報告　坂 田 聡 美（会友 284）

月日：６月１１日（日）

今回は梅雨時期の登山に初めて参加させて頂きました。天候をみながら現場で状況判断をし「観天望気」という言葉も教えてもらいました。天気予報などの手元の情報だけでなく、現地の様子からの観測も大事であることを知りました。

まずは車で青少年の森森林学習展示館へ移動をし、救急処置などの講義を受けました。三角巾、テーピング、心臓マッサージ、ロープの結び方など、山での準備の大切さを感じました。特にテーピングの汎用性には驚き、折れた足を固定するだけでなく穴の空いたカッパに貼る、タオルとストックを使い松葉杖にする、

取れた靴底を補強する等色々な困り事に対応できると知りこれからも必ず持ち歩こうと思いました。他にも、塩や傷を洗う水などあると便利な物を教えて頂いたので早速取り入れていきたいと思います。

昼食を早目に摂ったのちに御座ヶ岳へと出発し、途中小雨に降られながらもパーティを組んで進むことができました。足元がぬかるんでいたり勾配が急な箇所があったりしましたが、梅雨時期の登山の足捌きなど先輩方から学ぶ貴重な回となりました。

最近山に登り始めた私は、山を登ることがただ楽しくて、お花を見たり景色を見たり達成感を感じたりといった山の楽しさが先立っていましたが、山の怖さや準備の必要性、点呼や挨拶のルール、身の守り方、荷物や服装一つにしても考え抜かれた装備であること…など沢山の学びがありました。楽しさだけではなく、「ないとは言えない事態に備えること」をこれから意識して行動したいと思います。

誰かを頼りにするのではなく、色々なことに自分で対応できるような準備や知識を身につけて、これからも山登りを楽しみたいと感じた１日でした。

座ケ岳山頂にて

研修の様子①

研修の様子②

リーダー：笠井

参加者：安東、佐藤(秀)、中野(稔)、中野(梨)、工藤、土屋、佐藤(裕)、佐藤(彰)、今川、橋本、丸井(弘)、丸井(元)、青木、平原(瑞)、諸田、吉田、上野、佐藤(美)、河村、上橋、飛高、矢野、坂田、雪野、河津、興梠、濱崎、笠井（28 名）

個 人 投 稿

ペンリレー

今回はお休みですが、次回は今川美智子さんにお願いしています。お楽しみに。

より安全な登山のために No.49

『フリークライミング上達法』

安 東 桂 三(9193)

先の日本山岳会総会に先立ち、第 38 回図書交換会が開催された。６冊の本を希望し、そのうち３冊が送られてきた。図書交換会とは JAC 会員が読んだ本を必要とする会員への譲渡する会のことで、最近私は何度かお願いし、数冊の本を手に入れている。古い山岳書や高価な山岳書がリストにあり、どれも格安な価格で手に入れられる。ただし、多くの会員が同じ本を希望した場合は抽選となっている。ありがたいことと思う。

今回手に入れた『フリー・クライミング上達法』は、約 30 年前（1994 年）に発行された本で、その記述のなかに墜落の項があったので紹介しよう。『フリー・クライミングの世界では、自分の能力の限界で動いているときに一つでも誤った動作をすると、墜落の可能性がある。現代のフリー・クライミングでは、墜落は日常茶飯事になった。「自分の限界能力より常に半グレード落として登れ」という伝統的クライミングの条件を意識的に無視することによって、この数年の目覚ましい進歩がもたらされたのである。……』とある。

ただ、墜落は常に危険要素を含んでいる。墜落が許される岩場か、墜落が許されない岩場かの判断を間違うと、墜落によるケガなどのダメージが高い場合、登山人生を終わってしまうこともある。墜落によっての上達は必要だが。墜落慣れすると、『墜落しても大丈夫』になってしまう。

墜落しても大丈夫とはしっかりしたビレイヤー（確保者）がいること、しっかりしたピン（支点）があること、そのピンが抜けないこと、もちろんクライミングに使用しているロープが切れないこと、墜落した時にケガをしないような場所であること、などが考えられる。

今年の 7 月始めに剱岳に行ってきた。八ツ峰VI峰Ｃフェースの剣稜会ルートの登攀（この報告は別稿）が目的だった。この岩場は絶対墜落は許されない岩場である。ピンはプア（古く、効きが悪い）、岩場には不安定な浮き石が多い、滑落しても救助を要請出来ない。他に登攀者は誰もいないし携帯電話は圏外、山小屋はまだ営業していない、と絶対失敗が許されない岩場だった。そこでもしルートミスしたりして、行き詰った場合は墜落せず、登った時と同じように登るときに使用したホールド（手がかり）スタンス（足場）を使って安定したテラス（場所）に戻らねばならない。幸いクライムダウンはしなくて良かった。墜落による上達、限界能力を知ったクライミング、使い分けを心掛けたい。昔のクライマーは墜落しない登り方をやっていた。

さて、本年も『登山入門教室』が開催されている。9 月 13 日に 2 回目の座学講座が行われる。その座学で私は『ロープワーク』を講義する予定となっている。よく『ロープワーク』を知りたいという方が多い。もちろん支部会員もそう思っている方が多いと思う。そこで何を講義実演するか。ただ漠然とロープがあったら、安全に山が登れるのでは、と思っている人が多いと思うが、本当は『ロープ』のことを知ることから始めたい。山にあふれる固定ロープ、その固定ロープの安全性とか使い方とか。例えばロープを使って登るときに、二人がロープに結ばって、一人が落ちたらもう一人も引きずられて落ちてしまう、これをどう防ぐか。返ってロープなど使わねば良かったかもしれない。

クライミングにしてもロープワークにしても、真の技術は難しい。支部の会員には真の技術を理解することを願う。

より安全な登山のために No.50

『登山計画書（届）』

安東桂三（9193）

『より安全な登山のために』シリーズも、今回で50回目となった。よく続いたものだと思うし、よく記述するべき課題が発生すると思う。その内、No.1、No.15、No.27と同じ内容で記述している。いずれも登山計画書（登山届）の有益性についてである。当会では『公益社団法人日本山岳会遭難対策規定』が制定され、当支部では、『支部遭難対策規定』がある。原則、支部会員はすべての山行および山岳活動がこの規定の対象（一部、対象外もあるが）となっている。これを簡単に説明すると登山届を支部検討委員会に提出し、それをチェックしアドバイスし、本部の遭難対策委員会に提出するというもの。これは本会員の安全登山を高めることにつながることを目的としている。

当支部の会員は登山計画書（届）を担当の鹿島副支部長に提出しているが、すべてが提出されているかは疑わしい。会員各人の判断にてこれは出さなくても良いとか、これくらいの低山は出さなくても良いなどと省略されていると判断する。それはそれで良いかもしれないが、本当の意味での登山計画書（届）は書面にする、しないに関わらず必要と思う。

例えば小さな子供が「〇〇公園に行ってくるよ」と母親に言えば、母親は「気をつけてね」と言う。そして子供が帰ってきたら子供の「ただいま」、母親の「お帰り」で無事終了。ところが帰ってこなければ〇〇公園に探しに行くとなる。

登山計画書（届）は低い山とか、時間がないとかなどで徹底は難しいが、各人の最後の安全の砦として、口頭なりメールなりラインなり簡単な手段で、自分のことを心配してくれる人に伝えるべきと思う。

また、書面で提出する場合は必ず留守宅（緊急連絡先）を記載するようになっている。その欄には支部長名を記載したり、あるいは副支部長、事務局長や役員を記載すると決まっているが、子供が母親に伝えるように留守宅に記載した会員に「行ってくるからよろしく」という意味で説明し、下山すれば「無事に下山しました」と連絡があれば、無事にその山行が終わったと判断できる。ただ提出すればよいとの考えで、提出するなら計画書（届）の価値はない。

また、受け取る方もただ形式だけで受け取るならこれも価値はない。私は、私の名前がその欄に記載されれば（記載されなくても）、現地の天候やルートに対する個人の登山能力を思い、大丈夫かと気になってしまう。書面にするし、ないは別にして会員は自分のために自分なりの届を考えてほしい。

令和２年４月に発行された当支部の「第89号東九州支部報」の18～19ページに登山計画書届け出の手順が記載されているので、一度を再読をお願いする。

さて、本年６月21日に支部役員会が開催された。その役員会に飯田顧問が参加され、二つのことを提案した。その一つは「ヒヤリハット」。飯田顧問は、この頃事故が多い。その事故の原因を、会員すべてで共有し、そのような事故が再び起こらないようにという意味で「ヒヤリハット」の報告をしてはどうかとの提案だった。私もそう思う。人間は「喉元過ぎれば熱さを忘れる」で、一度危ない目にあってもそれを忘れて、同じような危ない目にあってしまう。そういった面でも登山を詳しく検証する意味でも、自分でなく人の苦労（過ち）を共有し自分は同じような苦労をしないためにも必要と思う。

特に私は、人が入らないような山に出かけることも多く、また厳しい山に行くことも多いので支部内で一番気をつけなければならないと気を引き締めている。

私の無名山ガイドブック（N089）

一ツ戸（517.7m）・長淵（352.4m）原（394.9m）.

飯田勝之（10912）

今回も前回に引き続いて宇目町の小ピークを紹介しよう。小俵山、大石山と続く稜線の南端に横たわるし稜線の上の三つのピークである。

一ツ戸

東西に横たわる稜線の中央の最高地点である。県道日之影宇目線の長淵から右折して県道宇目清川線に入り、約１．５ｋｍの除橋の手前から右に分岐する車道を入ると約１．5km で右に分岐する林道がある。これを入ると２００ｍたらずで右に分岐がある。ここから右の林道を歩こう。荒れた道を登って行くと１０分で小さな四つ辻で、まっすぐ行くと7分で左にコンクリート舗装の作業道が上へ続くが、まっすぐ荒れた作業道を登っていく。

１０分足らずで作業道は終わるが、すぐ上に見える天然林を目指してスギの疎林の中を登る。灌木林の急な斜面を登っていくと１５分余りで稜線に至るので、そこを右へ進むと５０ｍ余りで３等三角点の山頂に達する。

参考ルートとタイム：作業道分岐→２５分→作業道終点→２０分→三角点

地形図：25000 分のⅠ：中津留

長渕

県道日之影宇目線の長淵から右折して県道宇目清川線には入り、６００ｍほど行くと右に入るコンクリート舗装の林道がある。しかしこの舗装は２００足らずで切れて、あとは荒れているので林道入り口から歩くがよい。

荒れた林道は曲がりくねって上へ続いており、県道から約２０分（８００ｍ）で平らになり稜線を越える。三角点はここから２００ｍほど東にある。林道からほぼ平らに稜線に入り、南に進むと最後にわずかに登ると林道から１０分で４等三角点のある鈍頂に達する。

参考ルートとタイム：県道→２０分→林道の峠→１０分→三角点

地形図：25000 分のⅠ：中津留

原

大規模林道宇目小国線を宇目の国道から入って、約１km の所から西に分岐する林道を入ると、９００ｍの所から左に分岐する荒れた作業林道がある。

ここから歩いて林道を登る。約８分で林道が分岐する。その分岐を左にとり緩く山腹を巻くように登っていくと、ヘヤピンで左にカーブしてさらに山腹を巻いて登っていく。下の分岐から約１５分、林道は稜線を巻いて右カーブ。その向こうは広く伐開された植林地の斜面となる。

その直前の右上の小尾根にとりつき、シカ避けネットに沿って植林地の境を登っていくと１０分で小ピークに達する。三角点はそこから７０ｍ余り東の小ピークにあり、ヒサカキの小灌木を分けて小さく下ったあと登りきった小ピークの真ん中に４等三角点がある。

参考ルートとタイム：林道分岐→２０分→小陵線とりつき→１５分→三角点

地形図：25000 分のⅠ：中津留

個人山行
剣岳　八ッ峰Ⅵ峰
Ｃフェース剣稜会ルート

上 野 展 子（会友 253）

２０２３年７月１日～５日

昨年夏、前穂高岳北尾根ルートを登攀した後、次の目標を漠然とだが剱岳八ツ峰Ⅵ峰Ｃフェースと決めた。

５月 GW の残雪期山行を終えた後、本や過去の資料を調べるとクライミング技術、体力、スピードがないと厳しいと分かりトレーニングと研究を開始した。

当初の予定は梅雨明け７月 22 日頃だったが、今冬は雪が少なく春夏は大雨高温続き、雪渓の状態を考え、急遽梅雨の晴れ間 7/2?5 に行くことになった。ルートはＣフェース→上半縦走としたかったが我々の実力では無理と判断。

＜行程＞

7/1　大分→流杉 PA

7/2　流杉 PA→立山駅→室堂→剱御前小屋(クロユリの滝まで下見)

7/3　剱御前小屋→剱沢小屋→平蔵谷出合→長次郎谷出合→C フェース取付→C フェースの頭→Ⅴ･Ⅵのコル→長次郎谷→出合→平蔵谷出合→剱沢小屋→剱御前小屋

7/4　剱御前小屋→室堂→

7/5　大分着

２日、室堂を出発(8:26)、山小屋(10:52 着)にて情報収集するが前日までの大雨で雪渓がどうなっているか分からないとのこと、翌日暗いうちからのスタートなので、ルートの確認の為予定通り下見(11:46～14:20)に行く事にした。剱沢小屋から少し下った所で大きなシュルントが２つ見えた。(クロユリの滝と言うらしい)迂回ルートの確認のため、安東 CL がそこまで下って行った。下見の結果は雪渓も夏道も荒れていて苦労しそうということ。

３日、いよいよ本番、緊張する。外に出ると思ったより寒くない。アイゼンを装着し暗い中ヘッドライトにて出発(3:10)　前日確認したルートを下って行く。剱沢小屋(3:40)、平蔵谷出合(4:29)、長次郎谷出合(4:48)、取付(7:03)、この間休憩を 5?6 回、取付にて準備 7:36 スタート。

安東 CL がリード、ゆっくりとしたスピード。岩を見るとさほど難しいようには見えないのだが、それで返ってルートファインディングが難しいらしい。1P3P をこなし 4P、様子を見ながら 5P の途中まで行くからとスタートする CL。

リッジに上がる安東 CL が見えなくなり、「解除」「登れ」の声で私が続く。CL が見えていた位置までは同じ様に登り上がった。その先は右も左も切れ落ちているナイフリッジ。怖すぎる。ここをどう進んだのか？「リッジにまたがったよ。」と遠くから CL の声。そっとまたがり少しずつ進む。2m ほど進み今度は側面をトラバー

４ピッチ目のリッジ

ス、何とか CL の所まで辿り着いた。後 5m 位でＣフェースの頭だから、このまま登れの指示で登る。終了点が見えた。続いて CL が登って来た(9:56)。10 時までに着くという予定はこなせた。休憩、昼食。下山の準備をしながらゼリーやパンを飲み込む。水分補給。

ここからが大変だった。データの少ない中、懸垂下降支点を探しながら懸垂下降を重ねること四回、やっとⅤ･Ⅵのコル(5 峰と６峰の間のこと)(11:43)、ここでアイゼンを装着し、ロープに繋がり、ピッケルを手に持つ。雪渓を私が先に下り、次に CL、これも４、５回繰り返してようやく長次郎谷まで来た(13:05)。

残りは来たルートを引き返すだけだ。ただ私は下りが苦手なこと、ずいぶん疲労感があること、歩き切ることが出来るだろうか。長次郎谷、剱沢雪渓の途中まではまあまあ歩けていると感じていたが、剱沢小屋まであと少しという所で急に足が上がらなくなった。CL とロープで繋がり引っ張られながら歩くこと２時間、やっと御前小屋に帰り着いた(17:23)。明るいうちに帰り着いてほっとした。

山行前、Ⅵ峰Ｃフェースをクライミングというのはいいけれど、取付までが遠すぎると CL に話した時、Ｃフェースだけが目的ではないんだよと言われた。今、自分の辿った行程を振り返ると、剱御前小屋からＣフェースの頭まで約 810m 下り約 860m を登る、そして帰路もまた同じ高低差を下って登る。それもクライミングの装備、雪山の装備などを持ち、その場その場で必要な道具、技術を使いながら。事前のルート研究から始まりトレーニングを重ね、本番。ひとつひとつを丁寧にこなしてこそ、成し遂げることがで

きるのだと感じた。これこそバリエーションルートの醍醐味だと感じた。私は次の目標に向けもっと体力、スピード、技術を身に着けようと思った。
（メンバー：安東、上野）

個人山行
中央アルプス宝剣岳 サギダル尾根

橋 本　桂（準会員 0488）

2023 年５月２日～５日
　ゴールデンウィークを利用して山岳会の先輩と宝剣岳、サギダル尾根に挑戦した。メンバーは、リーダー安東氏、生野氏、上野氏、私の４人。サギダルとは、この尾根の南面の急峻な崖状地形（ダル）に「白鷺」の形をした雪形が出現することに由来する。白銀に翼を広げた白鷺を思い浮かべて、まだ見ぬ美しい尾根に想いを馳せた。ガイド本にはサギダル尾根は、花崗岩の岩稜帯でアイゼンが利かない場所があり、滑落注意…などの文字が踊る。昨年、北アルプス、槍ヶ岳デビューを高山病で幕開けしたばかりの私には、更なる不安が募った。
５月２日　快晴
19 時、大分発。
交代で運転し山陽道を走る。ゴールデンウィークの渋滞に疲弊する。
５月３日　快晴
　無事に駒ヶ根ＩＣに到着したのは 14 時過ぎ。駒ヶ岳ロープウェイで千畳敷駅に到着すると、15 時を過ぎていた。
　１ 時間ほどで八丁坂を登りあげ、どうにか 17 時半の夕食に間に合った。頭がクラクラする。山酔いというやつか。明日は歩かなければ…そう思いながら、夕食を必死で食べた。山荘の食事は、空腹の身体に力をつけてくれた。
　夕食後は山荘周辺を散策。御嶽山に沈む夕陽が感慨深かった。御嶽山向けて手を合わせた。長旅の疲労から 20 時には就寝する。
５月４日　快晴
　朝４時半、宝剣山荘出発。いざサギダル尾根へ。５ 月の爽やかな風に乗ってイワヒバリ達が祝福の歌を歌っている。昨日登った八丁坂を降りる。朝の澄んだ空気と、モルゲンに照らされ輝いたサギダル尾根に胸が熱くなる。
　尾根の取りつきまで急登をあえぎながら登る。Ａ 氏の「百歩歩いたら休憩！」の声が響く。百歩も歩けない…自分の体力のなさを嘆く。
　やっとの思いで取りつきに到着。暖冬の影響か、

岩稜帯の雪は解けていた。そこから見上げるサギダル尾根は迫ってくるような迫力があった。リーダーに言われるがまま準備を行い、登攀開始。
　１ピッチ目の核心部。ルートがわからなくなり、緊張と不安で行き詰まる。少しずつ呼吸が速くなる。「行くことも帰ることもできない…」そんな不安が身体を支配した。リーダーの登攀したルートを繰り返しイメージして自分の行くルートを探る。深呼吸をして一旦、気持ちを落ち着かせる。本来ならば禁忌だが、グローブを外し再びチャレンジする。すると小さなクラックを捉えることができ、難解な岩もどうにか登攀することができた。
　核心部を超えて２ピッチ目のハイマツ沿いを歩いている時、右足のアイゼンが外れていることに気づく。大きく声を上げリーダーに呼びかける。ゆっくりクライムダウン。３ メートルほど下のルート上にアイゼンは落ちていた。紛失したと思うと…。前コバが外れたこと、紐をしっかり締めていなかったことが原因。何事もはじめが肝心と思った。登攀開始にしっかりと確認を行うことを、肝に命じた。
　先輩方のフォローや素晴らしいチームワークにより、無事に登攀する事ができた。登り上がった時白く美しい三ノ沢岳が目に飛び込んできた。「おつかれさん。」そう言われたようで目頭が熱くなった。メンバー全員無事に登攀。互いの健闘に固

い握手を交わした。そのあと宝剣岳を登頂し、木曽駒ヶ岳を目指す。残念ながら私はサギダル尾根と宝剣岳で必要以上に体力を消耗してしまい、木曽駒ヶ岳を見ずに宝剣山荘でメンバーの帰りを待った。高山病や荷物の多さが、思った以上に体力を消耗してしまったのではないかと思われる。その日の午後に、ロープウェイでしらび平駅を降り、大分への帰路についた。

学びの多い山行だった。アイゼンの蹴り込み、ピッケルの扱いやグローブの脱着、学ぶことが多かった。高所での高山病予防のための深い呼吸や、ザックの荷物を減らす事。私の課題だと思った。サギダル尾根は想像通りの素晴らしい場所だった。未熟な私があの場所に立てたこと、山岳会の先輩達に心から感謝している。美しい白鷺のような飛躍に向けて、これからも精進したい。

（メンバー：安東、橋本、生野、上野）

個人山行
『岳 切 渓 谷』

安 東 桂 三 (9193)

近所に視覚障がい者の鍼灸師夫婦が開業している。そこは私の家から自転車で５分ほどの津留小学校の前。私は山に行き、あちこちにダメージがあるとすぐに診療をお願いしている。昨年その夫婦から来年は岳切渓谷を歩いてみたいとの要望があった。どうしたものかと思案していたが、本年７月 30 日が良いと言われ数人で、岳切渓谷に行ってきた。今回は、その報告。

視覚障害者はもちろん視覚に障害があり、我々晴眼者とは違った環境にあるが、同じように多くの楽しみを持っている。登山をしている方もいるしクライミングを楽しんでいる方もいる。先日上映された『ライフ・イズ・クライミング』は視力を失ったクライマー小林幸一郎さんの映画で、我々に勇気を与えてくれた。

また 10 年くらい前に視覚障害者で、愛知県にお住まいのＹさんから、久住山に連れて行ってと依頼を受け、久住山にいったことがある。その時は星子貞夫さん（JAC 会員 8582）に応援をお願いした。長者原のホテルにＹさんを迎えに行き、牧ノ戸から入山した。私のザックの左右に２本の紐をつけ、それをＹさんは、左右の手でそれぞれを持つ。また星子さんはＹさんの後ろで、Ｙさんの腰に結んだロープを確保して歩く。Ｙさんは私の動きを２本の紐で確認し、登り下りを私と同じように行う。もちろん私は石ころの有無や段差などを説明し、要所要所では阿蘇山が見えますとか、祖母山が見えますとか説明し、久住山の山頂まで歩いた。Ｙさんはよく歩き、無事にホテルに送り届けることが出来た。その後Ｙさんとは三重県の御在所岳の登山道でお会いした

ことがある。その後Ｙさんは日本百名山を完登したと噂にきいた。また当支部の佐藤義則さん（支部会友 210）らは、かつて佐藤さんが主宰する大分府内山岳会で、視覚障害者を支援して高崎山などで登山会を開催していた。

さて岳切渓谷。準備段階でサンダルが良いとか、いろいろ提案があったが、濡れてもよい運動靴を履いて、杖を持ちアシストしながら岳切渓谷の終点（大飛の滝　おおとぶの滝）までの２キロを往復するとなった。

夫妻は 79 歳と 85 歳で、私ともう一人Ｔさんがそれぞれ一人ずつフォローし、片腕をもち、横に並んで歩いた。最初にズボンをまくり上げ、恐る恐る渓谷に入ると、「これは良い。童心に戻った」ジャブジャブと歩き、堪能し、「ここは、流れの音がする、瀬になっているのか」とか、穴があると伝えると白杖を穴に突っ込み「これは深い」とか、「私の生まれた玖珠の家には、近くに小川がありよく水音がしていた」と言われ、楽しい時間を過ごした。「安東さん、こけないでね。私は支えきれないよ」とも言われた。太陽の光が反射して、流れの深さが分かりにくいところでは、かえって見えるほうが難しいところもあった。

終点の大飛の滝手前では、ロープで「これより先　進入禁止」の案内があり、そこで昼食をとり引きかえした。最後に「今日は、楽しかった」との言葉でホッとした。帰りの車、夫妻は爆睡となった。

個人山行

比叡山行かない

田所歳朗（14024）

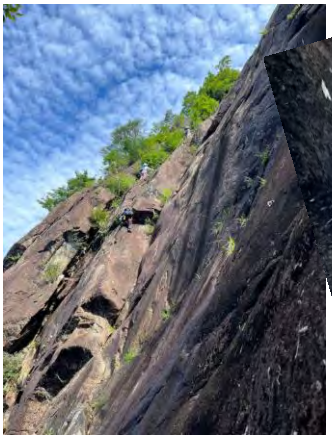
宮崎県延岡市に比叡山という岩山があるのをご存知でしょう。九州を代表するクライミングスポット

で多くのルートが開拓され初心者から上級者まで楽しめる所です。今回は初心者でも登れる大人気の TA カンテを紹介します。今年は既に３回登ってます。駐車場に着くと目の前に壮大な岩山がそびえたっています。

とても険しそうに見えますが、ここで怯まない。まずは近寄ってみましょう。

取り付きは説明しにくいので知っている人と行ってください。

まずは１ピッチ目



ここが一番難しいので何とかして登りきる。

登れなかったら帰って練習

２ピッチ目

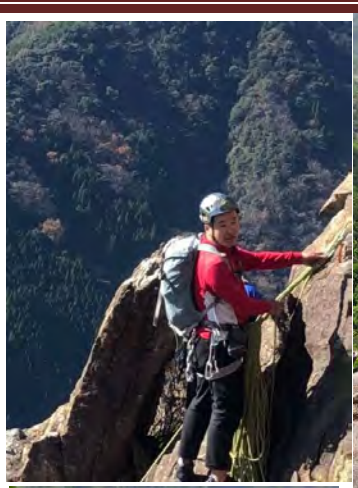
ここまで来たなら登れるはず。急がなくて良いから、ホールドを探すよりムーブをきめて掴むところは無数にあるか

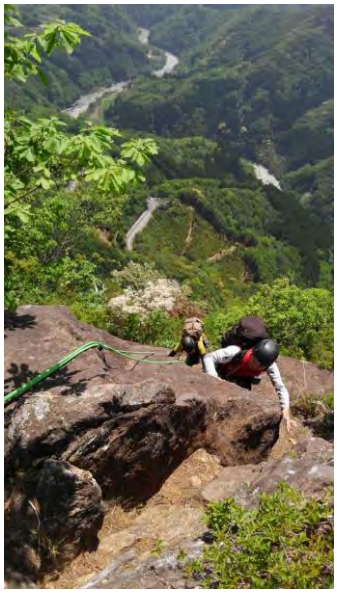
ら手がないとか言わないで下さい。
２ピッチ目を登りきったらテラスがあるので、ゆっくり休んで下さい。
３ピッチ目

巨大な岩が斜面に引っ掛っているので、なるべく触らないようにしましょう。

ここから展望が開けるので景色も楽しんで下さい。

４ピッチ目
３ピッチ目と大差ないが、そろそろ爪先が痛み





だす頃なので、余裕があればクライミングシューズを脱いで爪先を休めたい。
最後の５ピッチ目
右に行きたくなるが
真ん中がお勧め
あと少し
ガンバ”！
　どうです
みんな楽しそうでしょう。楽しいんですよ
興味ある方はまずは研修山行に参加して下さい。
いつでもご案内致します。(TA マスターが)
下山報告忘れずに

こぎこぎ倶楽部

クマガイソウ自生地と諸塚山など宮崎の山

報告　飛 高 紀 子（会友 244）

２０２３年4月２９・３０日
予定
２９日；戸次発６：００⇒高千穂町⇒１０：１０⇒二上山（１０７９・９８９）⇒赤土岸山（１１６９）⇒諸塚山（１３４１）⇒仲山城址キャンプ場宿泊
３０日；鳥屋岳（クマガイソウ）散策（７７２m)⇒筒が岳（１２９３m）⇒松ヶ鼻（１１６５，３m）⇒戸次

今回のこぎこぎ倶楽部山行は宮崎県高千穂にあるクマガイソウ自生群落地訪問を主目的とした特別企画でした。朝からのあいにくのお天気で、予定はあくまでも予定です。集合地点の戸次に参加者１７名が揃い、リーダーの指示のもとで５台に絞った車に沢山の荷物と食料を乗せ、高千穂に向かって出発です。

雨の降る中での岩場が危険なので最初の予定の二上山を残念して次の　『日本一早い山開きの山！』諸塚山に登ることにしました。

レインを着て、中には傘も差しながらの山歩きでした。アケボノツツジがかろうじて残っていました。雨の中でのピンク色の花は艶やかでした。クマザサの小さい株には白い花をつけていました。

諸塚山山頂にて

下山では階段はとても滑りやすいので慎重に下りました。諸塚山から少し下った工事現場の休憩場所を借りての昼食タイムです。朝が早く長時間の移動でお腹がペコペコ。

そのあとの赤土岸山（１１６９．２m）山頂まで、は林道から徒歩１５分・三等三角点でした。雨傘・ストックを握り登り始めました。その時その時リーダーの優しい声の『喝』が静かに聞こえました。『ザックを持たん奴は連れて行かん』、空身で出発する人の姿が見えたからです。足元がとても滑りやすく、樹や笹が茂っていてまさにこぎこぎでした。

高千穂の街に下って、まだ時刻が早いので観光案内所で聞いた珍しい名前の神社。木々に囲まれた「槌觸神社 （くしふるじんじゃ）」に参拝しました。見事な御神木があり格式高い神社のようです。

３時過ぎに、バンガローのある仲山城址キャンプ場に向かいました。早めの夕飯の準備に取り掛かり、待ちに待った酒盛りです。キャンプファイヤーこそないものの２種類のキムチ鍋とカレー鍋に興味津々です。鍋にたこ焼きが浮いてる（がんもどき）？？？なんてね。雨の為に、早めに始めた夕飯（乾杯）で出来上がるのも早い事。

キャンプ場バンガロー前で

寝るのも早く、日の出とともに目を覚まし身支度。早々に朝食を済ませ、今回の目的のクマガイソウ自生地見学（鳥屋岳７７２m）に向かいました。ここは興梠さんという方の所有する個人の山で、年に２回の見学会が開催されるそうです。２回とは、クマガイソウとキレンゲショウマの咲く時期のみです。

山の管理をされている、興梠さんに案内をして頂き、クマガイソウの自生地をはじめ、シロダモ（銀色の芽、赤い実）アマクサギ、ユキザサ、ツリフネハガクレ、ウワミズザクラ、ムラサキケマ

ン、シラネセンキョウなど多くの植物があり、初めて耳にする名前もありました。頂上には展望台があり３６０度の最高の眺めでした。

３時間余りの楽しい散策を終え、途中に酒蔵によりトンネルの貯蔵施設を見ました。焼酎などチョイスしてから次の山へ。五ヶ所高原の一の鳥居登山口から松ケ鼻（１１６５．３m）を目指します。途中にはロープがあり、足の置き場に苦労しました。下山はルートを変更し緩やかなまき道を通って全員無事に降りることが出来ました。残念ながら時間がなくて、筒が岳は次回に延期です。次回、筒が岳の山頂の岩に登ってみたいです。雨の中、大変お疲れ様でした。

参加者；飯田、鹿島、櫻井、宮原、丹生、平原（健）、甲斐、今川、神田、久知良、柳瀬、雪野、清水（道）、清水（久）、平原（瑞）、飛高

こぎこぎ倶楽部

牛ノ峰の子午線標探索と宮崎百山

報告　久知良美登里（16617）

令和５年５月１３日（土）～１４日（日）

５月１３日（土）

午前６時、戸次ホームワイド前に集合。車の台数を４台に絞って宮崎へ出発の予定が、１名遅れるとの連絡あり。「北川はゆま」で合流し、車を置いて一緒に出発のはずが時間的に間に合わず、遅れた１名はそのままキャンプ場へ行くことになる。

雨も降っているので、はゆまで雨具をつけ、16名で予定通り子午線標がある牛の峠を目指す。山之口サービスエリヤで高速を降り県道47号から牛の峠へ。

林道入口の奥にある大きな洋館の道路わきに車を止め、歩くこと40分で林道左上の子午線標発見。子午線標の頭の２本の角は、「夜、測量をするときに明かりをともすためのもの」だと佐藤さ

んから説明がある。集合写真を撮り子午線標を後に。花を見ながら歩くが「白い花が多くなると梅雨だな」と飯田さん。知らなかった。

まっすぐキャンプ場というわけにいかず、忘れたお酒の調達のためトライアルへ寄り道、そこの駐車場で昼食をとり、途中コメリでトイレを借りてキャンプ場、宮崎県野外活動センターへ。この

キャンプ場はボーイスカウトの研修施設とのことで、大きな研修棟が今宵の宿だ。

午後２時過ぎで、夕食にはまだ早く何もすることがないため、車で鰐塚山に行くことになる。車３台、11 人で頂上を目指す。崩れそうなところや、標高が上がると霧で前が良くみえず、ひやひやしながらやっと頂上へ。頂上には電波塔とトイレもあり、車数台が止められるスペースもあった。残念なことにガスで近くの山が少し見える程度であったが今度は天気の良い日に自分の足で登ってみたい。集合写真を撮りキャンプ場へ帰る。

待っている人たちには心配をかけたけど、もうすでにアルコールは入っているようでした。早速夕飯作り、今日のメニューは「寄せ鍋」「焼きそば」「鮭のちゃんちゃん焼き」「炊き込みご飯」女性陣全員でとりかかる。途中電気が落ちて電気器具が使えなくなるアクシデントがあったが無事夕食もでき、皆で食べながら、しゃべりながら、笑いながら、お酒もすすみ、夜は更けていきました。

５月 14 日（日）

朝食を済ませ、キャンプ場前で集合写真を撮り、管理人の方に挨拶を済ませ青井岳登山口に向かって出発。８時過ぎに登山口に着き、準備を済ませ宮原さんを先頭に出発。林道を 10 分弱歩き、いよいよ山の中へ比較的歩きやすいが、昨日一日降り続いた雨で地面も木の根もたっぷりと水分を含み滑る。

登山道から半分くらい来たところで休憩、じわじわと汗も出てきてちょうどよかった。頂上まであと少しのところで、ギンリョウソウ発見。初めて見たときは幽霊みたいでちょっと気持ち悪かったが、今は可愛いと思えるようになる。

青井岳山頂にて

頂上に到着。まあまあの広さはあるが、展望はなく三角点がある。三角点のそばに立て札が打ち込んであるが「離さないと位置がずれるので良くない」とのこと。集合写真を撮り下山。下りが苦手（登りも苦手）な私は慎重に歩を進め無事登山口に到着、１０時１５分。

「まだ早いし、まっすぐ帰るにはもったいない、どこかに登ろう」リーダーから話があり、帰りの途中で鏡山に登ることになる。高速で「北川はゆま」まで行き、ここで昼食を食べて一般道へ。国道１０号線の市棚から鏡山への道に入り、長い林道を上って行く。昨日と打って変わって太陽が出ていたので海が見えることを期待していたが、山頂付近はガスで何も見えない。頂上まで歩き一等三角点を囲んで集合写真。ついでに、反対方向に丸野山というピークがあるので、せっかくだから行こうと、平たんな道を歩く。ほとんど来る人もいないのか道という道はなく、頂上の表示もなく棒が一本あるだけでした。ここでも集合写真を撮る。最後迄ガスが消えることはなく、後ろ髪を引かれる思いで戸次を目指す。

戸次で解散式を行いそれぞれ車で帰っていきました。大変お疲れさまでした、初日は雨でしたが、楽しい２日間でした。ありがとうございました。

鏡山の丸野山山頂にて

参加者：飯田、鹿島、宮原、今川、丹生、大渡、佐藤(裕)、久知良、平原(健)、清水(道)、清水(久)、古谷、平原(瑞)、飛高、諸田、河村、佐藤(美)、行程：13 日　戸次・ホームワイド前：６時前集合、北川はゆま：７時 30 分、山之口サービスエリア： ９時 18 分、牛の峠・子午線標：10 時 46 分、コメリ：13 時 48 分、キャンプ場：14 時、鰐塚山へ出発：14 時 30 分、鰐塚山頂上：15 時分、キャンプ場到着：16：20

14 日　7：30：キャンプ場出発、8：10 登山口、9：15 青井岳頂上、10：32 青井岳登山口出発、12 時過ぎ：北川はゆま到着（昼食、13 時：鏡山へ出発、13：40：鏡山頂上、14：20：丸野山、14：40：鏡山出発、　16：15：戸次（解散）

こぎこぎ倶楽部

津江の県境稜線探索山行

報告　諸 田 佳 正(会友 246)

6 月 18 日(日)　天気：曇り。

仁田塚県境の峠より南東に進み幾つかのピークを越え、標高点 962 をへて更にその先の 954 との中間点にある鞍部より北東側の林道へ下るコース。時間に余裕があればカラ迫岳へのピストンを行う。

参加者 19 名、日田市前津江出野交流センター前に 8:00 集合。車を下山予定地に 4 台デポし、県境の峠にて点呼、現在地確認を行った。進む方角は確認していたが、草が生い茂っていて入っていくことが出来ない私がいる。生い茂った草や虫、特にクモが大の苦手なのだ。事前に支部報のレポート依頼を受け、目標を立てた。読図、先頭でのルートファインディング（コンパスと高度計を使用し常にルート確認）としたが、急遽、目標を”後方”でのルートファインディングに修正し、8:40 入山、皆の後に続く。

地図では読み難い細尾根やアップダウンの連続、思ったより時間を費やす。先頭では藪が深く鉈を片手に悪戦苦闘している。その時間を利用して何度も位置確認させて頂いた。

9:50 ルート上に三角点は無い筈だが、二つ目のピーク（出発点より直線距離 600m 地点）に三角点が・・・。似ているが図根点と云うらしい。初めて聞く言葉とそれを知っている方がいらっしゃることに驚いた。

調べてみると、国土地理院が設置した三角点（1 等～4 等）を基に各地区に設置されており、地球上の位置を示す緯度・経度を表し個人の境界杭の

図根点の標石

位置の基となる大変重要なもので、平成 24 年以降に設置したものは標高も管理されている。とあった。（まだまだ勉強が足りない・・・。）

標高点 962 手前の鞍部で昼食をとり 11:50 出発。ほどなくして本日最高点 962 へ、皆で記念撮影。残すは高低差 40m 程度の最後のピークを越えて林道へ下るのみであったが、このピークが今回最大の難所となった。

細尾根の急登である。見上げると 10m ぐらい上を 6,7 名が取り付いており中々進まない状況。地図をよく見ると北東斜面をトラバースの様に読めた。飯田さんが「斜面を試してみる」と細尾根に取り付いているメンバーに声をかけ動き出す。私もその後に続く。傾斜がきつく掴まるところを探しながら慎重に進んだ。滑落しない様にロープで確保しトラバースするシーンもあり思わず動画に収めた。実戦でのロープワークを初めて見た。木が支点となる様にロープを這わせ確保を取っていた。勉強になる。細尾根組、トラバース組がクリアするのに 30 分ぐらい掛っただろうか、全員無事に越えることができホッとした。14:15 林道へ変針する鞍部に着き、北東の谷へ下る、15:30 デポした車に到着。16:00 朝の集合場所で点呼し解散となった。

目標としたルートファインディングは、高度計とコンパス、地形、歩いた距離(想像)を照らし合わせた予想位置をヤマップにて照合。等高線に出てこない隠れピークで多少のズレはあったものの概ね満足。自信がついた。反省点としては地図上にポイントを決め、高度や進む方向を記入しておくと便利だと気付いた。次回は事前に地図上に進む方角や迷いやすい所など地図に書き込んでおきたいと思う。

安全で事故の無い登山が出来る様に、読図、ロープワークのスキルを上げ、草花を愛でたり、ピークハントであったり、憧れの景色を堪能したり、これまで以上に皆で登山を楽しみたい。今回の山行で計画や事前準備、調査して下さった皆様、ありがとうございました。

＜参加者＞飯田、鹿島、中野(稔)、櫻井、宮原、今川、丹生、大渡、佐藤(裕)、久知良、平原(健)、中野(梨)、清水(道)、清水(久)、賀来、古谷、平原(瑞)、佐藤(美)、諸田

登山会報リバイバル第４回

祖 母 傾 縦 走 記

安 部 可 人（会友 11）

平成１２年（２０００）１０月号（第１１号）、故郷の山を想う（渡部昭三）、「小学校５年生、春休み先生と級友で初めて祖母山に登った。木炭自動車に乗って行った尾平鉱山は操業中で沢山家があった。足にゲートルを巻いて登った。２回目は、竹田高校まで 8km 通学の仲間３人で春祖母傾全縦走した。学生服、飯盒、米、梅干、塩、つくだ煮、缶詰、アルミの食器、水筒、マツチ、懐中電灯、毛布、そんな装備でよく登れたものだ」とある。昔はマツチは必携、（同じころ安部の夏縦走は米軍払い下げの寝袋があった）。「尾平越の小屋（今はない）に着くころは雨も上がり小屋で服を乾かした。着替えはない。へとへとに疲れて九折小屋に５時過ぎに着いた」。（同じ年頃の安部 20 歳は真夏だ。その小屋を知らない。水があると聞いた尾平トンネル南口へ補給のため１時頃下ったが、ない。登山案内書は全然ない時代だ。水筒はカラ、ウヰスキーを飲んで本谷山で日が暮れた。動物が走った。寝袋があるから、天気だから心配しなかった。岩陰に遭難碑あり、若き岳人は渡部、安部と同じく無謀登山だろう。九折小屋着は８時だと忘れない。運よく単独行の若者が水とみそ汁をくれて有難かった。７時間水を飲んでいない。下まで水くみの体力はなし、道も知らない。すがすがしい朝の写真が残る。傾山はやめて、水のある北の谷へ下った。上畑でバスを待つ間、米軍払い下げのメタで飯をたいた

「上畑の高山商店で残った米を予想外に高く買ってもらい、帰りのバス代にお釣りが来たのが嬉しかった」とあるが、私もそんな経験がある。まだ米が不足した時代だった。渡部さんは毛布だから壊れた九折小屋の春休みの夜は寒さに震えただろう。傾山登頂の感激が伝わる文章だ（**注**）。さて、一番の問題点は「雨具」、「濡れればいいさ」と歌にあるが、当時は雨具がないのだ、やや遅れて透湿性のない「ポンチョ」が出た。渡部、安部は大雨なら死んでいたかもしれない。一度は祖母傾縦走を勧めるが、一般の高齢者は無理だ。若者には万一の体力が残る。水補給無し、安部夏の縦走はこたえた。渡部さんは水のことは書いていない。（**注**）渡部さんが感動した傾山山頂の五葉松の大庭園は消えたようだ（私の初登頂はずーとあと、４回は登っているが感動の記憶がない）。干ばつ（水かれ）が原因だと、首藤さん。昔は本宮山の河川に水量がもっとあった、植林が多量に水を吸い込むからだと高取最奥の同年輩の男の話だった（駐車許可）。

（**後記**）渡部さんに電話して元気そうだったが、山は遠ざかっているという。大分，九州百名山をご一緒した林昭子さんも裏山の霊山歩きさえやめた。会報創刊号の会員たちの多くが引退した。小竹、安藤夫妻、佐藤正八（死去）、足首を痛めた園田暉明さん、皆さんは西さんとよく同行した。

牧野、遠江は依然現役です。　さて、昔なつかしい渡部・安部のバンカラ登山スタイルはどうでしたか。真夏七時間も水無しで歩いたことは信じられません。

支部からの報告

支部会議報告

第１回役員会５月１２日（金）大分市西部公民館

1. 令和５年度定期総会を終えて（役員改選）
2. 令和５年度役員体制、補充役員２名を迎えて
3. 令和５年度事業計画　ほか
4. ４月月例山行（姫島：矢筈岳）アクシデントの件
5. 第１０回登山教室実施計画について　他

第２回役員会６月２１日（水）大分市西部公民館

支部連絡協議会の報告

1. 九州五支部集会（開催）について
2. 本部からの補助金について
3. 登山講習会、支部研修会の目的について
4. 第２０回青少年体験登山会の実施について
5. 第１０期登山入門教室について
6. ヒヤリハットの提案（飯田顧問）他

支部のルームについて開催状況

５月１２日（金）大分市西部公民館　出席者１１名（役員会兼ねる。）

６月２日（金）大分市西部公民館　出席者　５名

７月７日（金）大分市西部公民館　出席者　２名

お知らせコーナー

支部ルーム開催予定

８月４日（金）大分市西部公民館　18：30～

９月１日（金）大分市西部公民館　18：30～

10月６日（金）大分市西部公民館　18：30～

月例山行のご案内

８月月例山行：九州五支部集会(法華院温泉山荘)（山の安全を祈る集い）

日　時‥‥８月５日･６日（土）（日）

集合場所‥‥法華院温泉山荘

参加申し込み期限‥７月１５日（日）まで

担当（実行委員長）‥‥下川智子

参加申し込み‥‥TEL　097-595-1385

（携帯）090-1080-7623

Email　hyakusho-jo-to-12.18@docomo.ne.jp

※地図　小原　1/25,000

９月例山行：貫山　(711.6m)

日　時‥‥９月１７日（日）

集合場所・時刻‥‥吹上峠駐車場：午前８時

参加申し込み期限‥‥９月４日（月）まで

担当リーダー‥‥鹿島正隆

参加申し込み‥下記メールアドレスまで

macpapa@kcf.biglobe.ne.jp

※地図　湯坪　1/25,000

１０月月例山行：　ミソコブシ（1299.6m）（シニアトレッキング）

日　時‥‥１０月　日（日）　未定

出　発‥‥１０月　日（日）　未定

集合場所‥‥未定

参加申し込み期限‥‥１０月　日（　）未定

担当リーダー‥‥下川智子

参加申し込み‥‥TEL　097-544-0563

（携帯）090-9076-3391

Email　hukus@yahoo.co.jp

※地図　湯坪　1/25,000

登山講習会・支部研修実施のお知らせ

いずれも、安東まで問い合わせ　（090-5727-9472）

2023年度　登山講習会（８月以降分）

８月１９日（土）沢登り（実践編）神原川本谷あるは、小鳥谷（豊後竹田市）（日出町）

2023年度　支部研修（８月以降分）

９月２日（土）クライミング（基礎編）石槌神社の岩

日出町黒岩グランド駐車場　８時３０分　集合。

※　クライミングに必要な装備を持参してください。（見学だけでも結構です）

10月１日（日）皿内城山

国道326号沿いの「ウメタウン326」駐車場に８時、集合。

佐伯市宇目町西山へ移動。皿内城山の北西尾根を登り、一般道を下山します。

（ヘルメット・ハーネス・ビレイデバイス）などを持参してください。

地形図　1/25000　中津留

九州五支部集会及び山の安全を祈る集いのご案内

「第３回　九州５支部集会（５支部懇談会）」および「第14回　山の安全を祈る集い」開催のご案内

九州で一番標高の高い温泉「法華院温泉山荘」に集う

期　　日　2023年８月５日(土)･6日(日)
参加資格　会員、準会員、会友（定員70人）
場　　所　法華院温泉山荘（現地集合）
経　　路　長者原～雨ケ池越～法華院温泉山荘　約２時間
　　牧ノ戸峠登山口～沓掛山～久住分かれ～法華院温泉山荘　約３時間
参加費用　13000円（一泊二食、懇親会）

翌日の山の安全を祈る集いの山行のお弁当は含まれません。お弁当（1000円）が必要な方は８月５日受付でお申し込みください。

申し込み期間　2023年５月15日～6月15日
申し込み先　申し込みは支部でまとめてメールまたは郵送でお申し込みください。
【メール】beca5844@oct-net.ne.jp
【郵送】870-1113 大分市中判田15-55
ご不明点は東九州支部　事務局長　阿南寿範（080-3187-2003）まで
※山岳保険に各自加入のうえ、ご参加ください。

古道調査の進捗状況について

４月までに、古道全線（２３０km）現地調査を終えて調査委の選考により、５ルート案を報告するよう決まりました。これからまとめ作業に入り、９月30日を目途に完成を見込んでいます。その後、方針を再検討する。

＜５ルート案＞

1.宇佐神宮～御許山～金丸　主担当：佐藤
2.本宮摩崖仏～田染荘～富貴寺　主担当：下川
3.並石（大内岩屋）～天念寺耶馬～応暦寺　主担当：鹿島
4.夷谷～千灯寺～岩戸寺　主担当：鹿島
5.瑠璃光寺～両子寺　主担当：阿南

喜寿登山のご案内

本年も喜寿登山を開催します。昨年は高崎山でした。本年は一目山・ミソコブシで計画しております。９月、10月ごろ開催予定です。

＜喜寿対象者＞

大平展義、山本康文、渡辺保恵、工藤吉子、尾家暁夫　５名

日時決定次第お知らせ致します。

青少年体験登山大会

場　　所‥‥くじゅう連山（久住山）
集合場所‥‥牧ノ戸峠レストハウス駐車場
参加申し込み期限‥‥８月25日（金）
担当リーダー‥‥佐藤裕之
参加申し込み‥‥TEL　097-544-0563
　　（携帯）090-9076-3391
Email　hukus@yahoo.co.jp

個人山行について注意事項!!

夏山シーズン到来で、休みを取得し遠くの山に出かける機会が増えると思いますが、十分・余裕をもった山行計画を立て、事故のない安全な登山を心掛けようお願いします。

第３回支部役員会開催のご案内

第３回　支部役員会を下記の通り開催しますので役員の方はご参集下さい。

日　　時‥‥‥令和５年７月２７日（木）
場　　所‥‥‥大分市西部公民館
議　　題‥‥‥①令和４年度事業計画について
　　②登山入門教室について
　　③古道調査について
　　④その他

韓国山岳会蔚山支部との交流登山参加者募集

コロナウイルス感染のため中断していました、韓国山岳会蔚山支部との交流を再開しようと思います。現在、先方と連絡中ですが、実施日は 10 月 14 日、15 日。交流登山は英彦山と犬ヶ岳で歓迎交流会を 14 日（土）などで計画中です。

宿泊施設予約等を行うため、参加者の把握をしておきたいと思いますので、参加希望の方は、事務局阿南まで、下記メール宛申請をお願いします。9 月 8 日（金）〆

beca5844@oct-net.ne.jp

（先方の都合により変更が考えられますが）宜しくお願いします。

後　記

・支部報編集のピンチヒッターとして依頼され、今号を取り急ぎ手掛けてみました。やや慌てた手前、いささか手落ちもあると思いますがご容赦下さい。

・「うだるような暑さ」という言い回しが昔から使われていました。また、あぶら照りやじりじりとした暑さ、むせかえるような暑さ、焼けつくような暑さ、盛夏、猛暑、酷暑、炎昼、大暑、溽暑、炎暑、炎天・・・、こんな言葉では尽くせないほどの近年の夏の暑さです。

・涼を求めて山登り・・、でも九州のせいぜい高くても１７００ｍぐらいの高さでは涼しいどころか、九重山のような照りつける山道では、油断をすると命すら危うくなるほどの暑さです。

・筆者が若かりし頃は「山で水を飲むな。飲むと汗をたくさんかいて余計に疲れる」などと間違った科学知識で言われていました。今では水分補給が何より大切とされています。

・水分補給をともに大事なのが「塩分補給」と言われますが、これは「塩」のことではなくミネラルの補給で、特に大事なミネラルはカリウムだと言われています。山道で脚が痙攣したり、バテたりするのもカリウムが不足しているからです。

・カリウムは海藻や果物、豆類、魚介類などに多く含まれていますが、これらを日常の食生活の中で摂っておくことが山道でのバテ防止になるとのことです。

・痩せたる人を嗤咲（あざわらう）う歌二首・大友家持（おおともやかもち）

「岩磨（いわまろ）に　我物申す夏痩せに　良しという　ものそ　鰻（むなぎ）とりめせ」

（岩磨さんに申し上げます、夏痩せには鰻が良いと言いますよ。鰻をとってお食べなさい）

「痩（やす）す痩（やす）も　生けらばあらむ　はたやはた　鰻（むなぎ）をとると　川に流るな」

（痩せていても生きているだけでそれでよいでしょうに、鰻を捕ると言って川に流されるなよ）

(K・I)

公益社団法人日本山岳会東九州支部
東 九 州 支 部 報　第 102 号
２０２３年（令和５年）７月２５日発行
発行者　安東桂三
編集者　飯田勝之
発行所　事務局
〒879-1113　大分市中判田 15-55　阿南方
TEL･FAX　097-797-7120
E－mail　beca5844@oct-net.ne.jp